

第四十八圖 大 孤 父 面 (第百十九號)

大 孤 父 面 (第百十九號)
大小 縦 内 三三〇・〇 横 外 一八・八 内 一五・八 (頭に丁度よし)

長幅老人相、額の皺の複雑のためか憂い顔に見える。彫刻は粗であるが目鼻口は形通りに透し、額は黒く、顔は白く塗り、目に緑青、唇に朱を彩る。眉に植毛の痕があり、口ひげ顔ひげ頬ひげもあつたらしいが、その爲顔を二段に彫つて毛を貼るようになっているのは、普通と異なる技巧である。

大 孤 父 面 (第八十五號)

大 孤 父 面 (第八十五號)
大小 縦 内 三三九・〇 横 外 二二・七 内 一七・〇 (頭に丁度よし)

長幅老人相、厚手の作で眼鼻口の五孔を透し、又幅に大きく三角形を透す。額は木地のままで、顔は粉地に黄褐色を塗り、唇に朱、目に緑青を彩り、頬に紅を暈かす。又眉毛、口髭、頭鬚には白毛を植えた迹が残る。



第四十八圖 大 眞 父 面 (第六十五式)

この面、真父に類するもの、
 白鳥野田村に於て見られたるもの、多岐野田村に於て見られたるもの、
 ともに、
 大 眞 父 面 (第六十五式) といふ。
 其の形、
 大 眞 父 面 (第六十五式) といふ。

大 眞 父 面 (第六十五式)

この面、真父に類するもの、
 白鳥野田村に於て見られたるもの、多岐野田村に於て見られたるもの、
 ともに、
 大 眞 父 面 (第六十五式) といふ。
 其の形、
 大 眞 父 面 (第六十五式) といふ。

第四十九圖 大孤兒面 (第十九號)

大小 堅 内 三・五 横 外内 一五・八 (頭蓋入りぬ)

目鼻口の五孔を透し、全面丹の具(淡紅色)を塗り、髮際と眉とは墨で毛筋を描き、目には緑青、齒に灰黒色、唇に紅を塗り、頬・耳・人中には赤色を彩している。又頂には毛を植えたあとがあり、後頭部の縁には連続せる小孔を穿ち、右頬うらには「大日師作」の墨書もある。この面は御物中でも稀に見る優秀作である。

大孤兒面 (第二百二十三號)

大小 堅 外内 不明 横 外内 一六・三 (頭蓋入りぬ)

口から下が欠失しているが、眉、目、鼻口の彫刻が前者と酷似するのみならず、彩色までも同じである。恐らく二面一具として作られたものであろう。ただ異なるは耳朶に貫孔ある事と頭頂植毛の中央に金銅圓板を打っている事であるが、金銅圓板は前者にもあつたであろう。



の式である。

丹波の形は、頭頂部が丸く、口は細く、目も細く、鼻も細く、耳も細く、顔の輪郭も細く、全体が非常に繊細な造りで、口は少し開いて、微笑んでいるように見える。これは、丹波の形の特徴である。

大 派 京 前 (第一式)

大 派 京 前 (第二式)

丹波の形は、頭頂部が丸く、口は細く、目も細く、鼻も細く、耳も細く、顔の輪郭も細く、全体が非常に繊細な造りで、口は少し開いて、微笑んでいるように見える。これは、丹波の形の特徴である。

丹波の形は、頭頂部が丸く、口は細く、目も細く、鼻も細く、耳も細く、顔の輪郭も細く、全体が非常に繊細な造りで、口は少し開いて、微笑んでいるように見える。これは、丹波の形の特徴である。

丹波の形は、頭頂部が丸く、口は細く、目も細く、鼻も細く、耳も細く、顔の輪郭も細く、全体が非常に繊細な造りで、口は少し開いて、微笑んでいるように見える。これは、丹波の形の特徴である。

丹波の形は、頭頂部が丸く、口は細く、目も細く、鼻も細く、耳も細く、顔の輪郭も細く、全体が非常に繊細な造りで、口は少し開いて、微笑んでいるように見える。これは、丹波の形の特徴である。

第四式圖 大 派 京 前 (第一式)

第五十圖 大孤兒面(第百十四號)

大小 堅 内 二七・三〇 横 外内 二〇・二五 (頭道入りぬ)

白面少年相、後頭部まで一木から彫成した薄手の作である。頭は黒漆塗、顔は胡粉塗で、眉毛を墨書、唇には朱を彩し、目と齒は胡粉を塗りその齒並みを銀泥で描く。なお頭部頂上には毛をおかつばにおいた痕が残る。

大孤兒面(第八十號)

大小 堅 内 三二・二〇 横 外内 二六・〇〇 (頭が通入りぬ)

前者に比べて頬が幾分かけてはいるが、目鼻口の彫刻、耳の形、彩色の様子、眉の毛書き、頂上に髪を植えた形迹のある事まで、全く一致し、兩者一具の孤兒面である事が察せられる。なおこの面の左頬耳下には「太□」の墨書がある。

第五十一圖 大孤兒面(第二十三號)

大小 堅 外内二五・八號 横 外内一六・五〇號 (頭が辛して入る)
白面少年相、後頭部まで一本で彫成し、眼鼻口の五孔を透す。製作は粗雑で、頭は黒く塗り頂上髪を植えて銅圓板をうち、顔は胡粉塗りして唇を赤に染め、眉と眼縁と齒並とを黒線で描く。

大孤兒面(第五十四號)

大小 堅 内二三・〇號 横 内一五・五號 (頭が辛して入る)
白面少年相、頭は黒塗り、頂に髪を一段に植えて銅圓板をうち、顔は胡粉塗りに、黒線をもつて眉目の輪郭と齒並とを描き、唇に朱を塗り、彫刻の技巧、彩色の實際等共に、前掲の第二十三號面と一致するは、また兩者一具の面として造られたものと思われる。



三附各一具の面より、顔の形を以て、
 現像の対し、深部の官能等共、
 諸佛の面より、眼の形を以て、
 白濁の形を以て、
 大正 昭和 二〇 二一 二二 二三

大正 昭和 二〇 二一 二二 二三

第五十一圖 大正 昭和 二〇 二一 二二 二三

本面より、
 大正 昭和 二〇 二一 二二 二三

第五十二圖 大孤兒面(第九十三號)

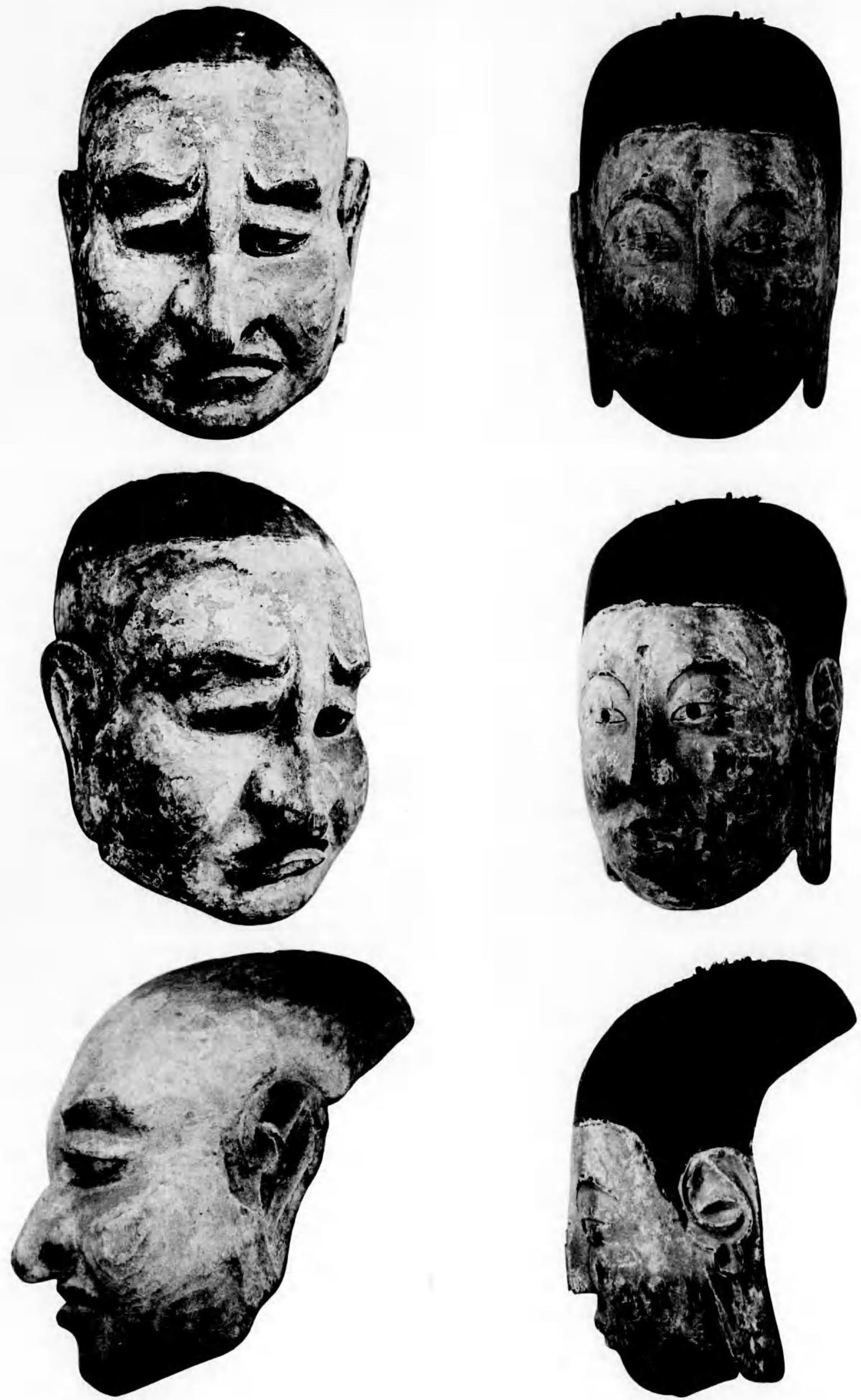
大小 堅 内 一八・〇 横 外 内 一七・〇 體 (頭が短く入らぬ)

白面少年相、頭は黒く塗り頂に毛を植えて金銅圓板を打ち、顔は胡粉に塗つて眉、眼縁とを黒線でかく。これら何れも耳の彫刻と相俟つて前掲第二十三號並五十四號の二面と似るが、彼等が唇を開き齒並を現わしているのと異り口を閉じている。従つてこれは眼と鼻孔の四孔のみを透す。

大孤兒面(第十號)

大小 堅 内 三三・〇 體 横 外 内 一五・五 體 (頭が辛じて入る)

眉を立て眼尻を下げ憂いの相をなし、目と鼻の四孔を透す。頭は木地のままであるが、顔は胡粉地に肉色を塗り、口には朱を彩し、眼縁は墨でくまどり、眉は毛筋を墨で描く。なおこの面の内側中央に「大孤□」右頬裏に「讚岐」の墨書がある。



さきほどの面は皆同じ文の「大派」に属する。其の形は、
 顔は長方形に似て、目と鼻の距離が、顔の幅より少し狭い。口は少し開いて、
 唇は少し厚い。鼻は少し高く、鼻先は少し丸い。耳は少し長く、耳垂は少し丸い。
 髪は少し短く、髪は少し黒い。顔は少し暗い。顔は少し平たい。

大派 泉 面 第一号

この面は、大派の泉面に属する。其の形は、
 顔は長方形に似て、目と鼻の距離が、顔の幅より少し狭い。口は少し開いて、
 唇は少し厚い。鼻は少し高く、鼻先は少し丸い。耳は少し長く、耳垂は少し丸い。
 髪は少し短く、髪は少し黒い。顔は少し暗い。顔は少し平たい。

この面は、大派の泉面に属する。其の形は、
 顔は長方形に似て、目と鼻の距離が、顔の幅より少し狭い。口は少し開いて、
 唇は少し厚い。鼻は少し高く、鼻先は少し丸い。耳は少し長く、耳垂は少し丸い。
 髪は少し短く、髪は少し黒い。顔は少し暗い。顔は少し平たい。

第五十二圖 大派 泉 面 第二号

この面は、大派の泉面に属する。其の形は、
 顔は長方形に似て、目と鼻の距離が、顔の幅より少し狭い。口は少し開いて、
 唇は少し厚い。鼻は少し高く、鼻先は少し丸い。耳は少し長く、耳垂は少し丸い。
 髪は少し短く、髪は少し黒い。顔は少し暗い。顔は少し平たい。

第五十三圖 大孤兒(第九號)

大小 縦 内二・〇 横 内一・四
外三・五 外一・五
(頭が墨入らぬ)

白面童子の相、兩眼の二孔を透すのみで、顔全面に胡粉を塗り、目は墨線で隈どり、眉は墨で描く。今は後頭を失うが、接木して作られていたらしく布張の痕が残る。なおこの面の内側には鼻裏に麻布を貼り、その上方に「天」左脇に「上野」左頬裏に「大孤兒」の墨書がある。圖版向つて左はその墨書を原寸大に撮したものである。



第五十二圖 大孤泉(華北)

大孤 華北 西 1111 號 西 1112 號

式好子の墨書を風を大に堪へるが如きものなる。
の土に「天」或「地」或「天」或「地」の墨書は、
さるるが如きものなる。今其の墨書を考へ、
墨書を照ると、其の墨書は、
白頭童子の世、南郡の二井を築くが如き、
墨書を照ると、其の墨書は、

第五十四圖 醉胡王面(第四十七號)

大小 堅 外内 三六・〇〇 横 外内 二六・七〇 (頭に丁度よい)

鳥帽子形の冠をつけた有髯長鼻の大人相をなし、後頭部まで一木で彫成するが冠の上部は接木している。目口鼻の五所を透し、顔には赤の具を塗り眼は銀、唇は紅に彩り、眉毛は墨で描くが、口髭頤鬚類髯は何れも黒き毛を植え、耳朶には貫孔を作る。又冠は赤地に縹網彩の花并唐草文を描く。なお左頬裏には墨書銘があるが判讀し難い。

第五十五圖 醉胡王面(第四十七號)

前掲醉胡王面の正面と側面を示す。

醉胡王面(第五十三號)

大小 堅 内 三六・〇 横 内 一八・五 外 二三・五 (頭に丁度よい)

頰の豊かな精力的な相をしている。目鼻口の五所を透し、顔には粉地に蘇芳色を塗り、目は銀、唇は朱を彩し、眉毛・口髭・鬚・頰髭は何れも細かく墨でかく。冠は粉地に緑色を塗りその上に花文を彩畫したらしいが、兩側面は剥落してわずか正面にのみその片影を残す。



第五十五圖 箱馬王前(第四十三卷)

高麗新羅王師の首飾も同じなものである。

箱馬王前(第五十二卷)

大正三年(一九一四年)に東京に発見された。

この法、箱馬王前(第五十二卷)の首飾も同じなものである。巧み勝たぬ彫刻は、高麗新羅王師の首飾も同じなものである。高麗新羅王師の首飾も同じなものである。高麗新羅王師の首飾も同じなものである。

第五十六圖 醉胡王 面 (第三十二號)

大小 堅 内 三六・〇 横 内 一八・〇 (頭に寸度よじ)

桐の一本彫成で、その全體の姿は第五十四圖の醉胡王面に似る。目鼻口の五所を透し、耳朶に貫孔を穿つ事も彼と同じであるが、これは木地のままで彩色なく、僅かに冠の右側面に鳳凰の飛翔するを墨で描いている。

なお右頬裏に「作葱坂福貴功九人」の墨書がある。

醉胡王 面 (第六十一號)

大小 堅 内 二五・五 横 内 一八・〇 (頭に寸度よじ)

冠の上部を朽損するが姿は前掲第三十二號面に似る。薄手の作で目鼻口の五所を透し、顔には胡粉を塗り、唇は蘇芳に染め、眉毛を墨で描く。



顔の表情を仰ぐ。眼は閉ぢたが、口は開いて笑う。

此の土箱を出土する次第は、前掲の如く、新干の土器の群の中に属する。

大正 四年 三月 三十一日 東京 国立博物館 蔵

箱 土 箱 (第一一七号)

大正 四年 三月 三十一日 東京 国立博物館 蔵

顔の表情を仰ぐ。眼は閉ぢたが、口は開いて笑う。

此の土箱を出土する次第は、前掲の如く、新干の土器の群の中に属する。

大正 四年 三月 三十一日 東京 国立博物館 蔵

大正 四年 三月 三十一日 東京 国立博物館 蔵

箱 土 箱 (第一一七号)

第五十七圖 醉胡王面 (第六十號)

大小 堅 内 三三・五釐 横 外内 二八・五釐 (頭に大ききる)

白面長鼻の老人相をなし、額には三段の皺を刻し、目鼻口の五所を透して、顔には胡粉を塗り、目と齒は銀、唇には朱を彩り、口髭は無く頤鬚のみ植毛している。冠は吹返しある鳥帽子形のもので、その三面には蘇芳地に唐花文をあらわし、吹き返しには緑青を塗る。

醉胡王面 (第十五號)

大小 堅 内 三八・〇釐 横 外内 二七・〇釐 (頭に大ききる)

正倉院の伎樂面中、彫刻的に最も手のこんだ面で、材質的にも桐・樟・杉の各材を用いている。眼鼻口の五所を透し、顔には胡粉を塗り唇に朱彩を施すが、鬚鬣は前掲四十八圖の大狐交面に見られる特殊な方法で頤に切込みをしてそこに植毛している。冠の彫刻には特に意を用い、巾子を繞つてその正面に鹿、左右の側面に羽翼を彫出し、巾子には唐花文をあらわしそれぞれに極彩を施し、又冠帯と頬被を作つて冠帯は緑青に染め、頬被には胡粉地に豹斑を描いている。かくの如くこの冠に鹿、翼、豹斑のあらわされていることは、西大寺資財帳の醉胡王面に註して「一面桐、鹿皮赤紫綾冠、以金墨繪鳳並草形等簡縁」とあるのに思ひ合すべきか。なおこの面の左頬裏に「相摸國」の墨書がある。



本邦の神楽は、その地域の特色を強く反映し、またその舞の形式も、併せて各地方の特色を反映している。西の地方には、神楽の舞が盛んであるが、その舞の特色は、神楽の舞の特色を反映している。東の地方には、神楽の舞が盛んであるが、その舞の特色は、神楽の舞の特色を反映している。

箱馬王 前 (第十五巻)

大正 昭和 昭和

第五十一圖 箱馬王 前 (第六十巻)

本邦の神楽は、その地域の特色を強く反映し、またその舞の形式も、併せて各地方の特色を反映している。西の地方には、神楽の舞が盛んであるが、その舞の特色は、神楽の舞の特色を反映している。東の地方には、神楽の舞が盛んであるが、その舞の特色は、神楽の舞の特色を反映している。

第五十八圖 醉胡王面(第四號)

大小 堅内三八・〇 横内一七・〇 額(頭に丁度よし)

一木を筒状に刳り、頂上と帽子前板を接木して造る。目鼻口の五所を透し、全體に胡粉を塗つて、帽子には四瓣花文を散らし、顔には眉毛・口髭・頤鬚・眼蓋・眼玉・齒並等を墨で描く。なお唇に朱を塗り、右頬裏には「隨翠□」と墨書している。



第五十八圖 猪 阪 王 前 (奉 州 製)

大正 昭和 二 年 一 月 二 日 一 冊 一 冊 (一 冊)

この猪阪王の像は、淡路島の猪阪にあり、その像の
顔は、猪の顔に似て、口は、開いて、舌を出して、
目を、大きく、見開いて、全身、黒く、塗られて、
一本、黒い、線が、目、鼻、口、の、間、を、通って、
鼻、の、下、を、通って、口、の、下、を、通って、

第五十九圖 隨群面一類(第九十二號)

大小 堅 内 二五・〇釐 横 内 一六・五釐 (頭が辛じて入る)

木彫に乾漆を併用した厚手の面で、目鼻口の五所を透し、顔は黒漆地に丹を塗り、墨で眉毛・口ひげ・あご鬚・髮際の亂毛を描き、且つ唇に朱、齒と目縁に肉色を塗り、頂には茶毛を三段に貼る。なおこの面の左頬裏には「延影」の墨書がある。

隨群面一類(第六號)

大小 堅 内 二六・〇釐 横 内 一七・三釐 (頭に丁度よい)

目鼻の四孔を透した薄手の面で、頭は黒漆塗、顔は胡粉を塗つて、目口等にも別に彩色はないが、その右頬裏には「隨群」の墨書があり、この式の面を隨群と稱せられた事を知る。



木地。

顔は平面的、その縁は木目が見え、その中に顔の輪郭が浮かび、その左の頬と眉の間は、その平面的な顔の輪郭を強調する。目は、その平面的な顔の輪郭を強調する。目は、その平面的な顔の輪郭を強調する。

大々 顔の面一環（第六巻）
（第五巻）

この平面的な顔の輪郭は、その平面的な顔の輪郭を強調する。目は、その平面的な顔の輪郭を強調する。目は、その平面的な顔の輪郭を強調する。目は、その平面的な顔の輪郭を強調する。

第六十式圖 顔の面一環（第八十二巻）

大々 顔の面一環（第六巻）
（第五巻）

第六十圖 隨群面一類 (第九十四號)

大小 堅 内 二七・五釐 横 外内 一七・五釐 (頭に寸度よい)

少し長顔ではあるが目鼻口の二つの形は前掲六號の隨群面と甚だ似る。又彼と同様目鼻の四孔を透し、今は剥けてはいるが顔を胡粉に塗つた痕迹も見られる。後頭部を失うが布目の残存によつてもと接木してあつた事が知られる。

隨群面一類 (第八十七號)

大小 堅 内 二七・五釐 横 外内 一七・五釐 (頭に寸度よい)

顔の詰木が脱落しているが、眼鼻口の五所を透し、顔は粉地に丹を塗り、目を銀にして目玉に緑青の界圍を描き、唇に朱を彩し、眉毛口髭鬚と髮際の際れ毛とを共に墨でかく。なお頭頂には三段に貼毛の痕がある。この面の相貌彩色共に前掲九十二號面に似る。



第六十圖 鬮面一様（第六十四頁）

此は前掲の鬮面（第六十圖）より、其の意匠を採りて、
 其の意匠を採りて、其の意匠を採りて、其の意匠を採りて、
 其の意匠を採りて、其の意匠を採りて、其の意匠を採りて、
 其の意匠を採りて、其の意匠を採りて、其の意匠を採りて、

鬮面一様（第六十四頁）

此は前掲の鬮面（第六十圖）より、其の意匠を採りて、
 其の意匠を採りて、其の意匠を採りて、其の意匠を採りて、
 其の意匠を採りて、其の意匠を採りて、其の意匠を採りて、
 其の意匠を採りて、其の意匠を採りて、其の意匠を採りて、

第六十一圖 隨群面一類(第二十九號)

大小 堅 内 二五・五釐 横 外内 二九・〇釐 (頭に丁度よし)

美作薄手の面で目鼻口を透し耳朶に貫孔を作る。全面黒漆地に丹を塗り、唇に朱を彩り、齒は胡粉塗りして齒並みを墨書し、眉毛・口髭・頤鬚・鬚は毛筋を墨でかく。又頂に毛を貼り、左頬裏に「作大田倭麿、十日作子」と墨書している。

隨群面一類(第二十八號)

大小 堅 内 二九・〇釐 横 内 一八・〇釐 (頭に丁度よし)

前掲面に比べて鼻が大きく短いが、眉目口耳の姿など甚だ似る。顔は粉地に丹を塗り、眼と齒に銀、口唇に朱を彩り、眉・ひげ・鬚は墨でかくが、その描線は前者に比してより自由である。右頬裏に墨書あり「作大田和麿功七人□」とよまれる。



第六十一圖 鬮舞面一様(第二十八號)

この面は、本舞臺に用ゐられたものである。其の形は、
「鬮舞」の面、口は口を閉ぢ、鼻・心守・額に横筋を刻み、その口は
前歯の面より、鼻は鼻の筋を刻み、目は口の筋を刻み、その口は
大に開き、鼻は鼻の筋を刻み、目は口の筋を刻み、その口は

鬮舞面一様(第二十八號)

自由である。本舞臺に用ゐられたものである。其の形は、
「鬮舞」の面、口は口を閉ぢ、鼻・心守・額に横筋を刻み、その口は
前歯の面より、鼻は鼻の筋を刻み、目は口の筋を刻み、その口は

第六十二圖 隨群面一類(第八十一號)

大小 堅 内 二四・〇 横 外 内 二七・〇 辨 辨 (頭に丁度よし)

赤面長鼻の壯者相で、目鼻口を透し、頂は素地のままにし顔には丹を塗り、眉・口髭・頤鬚を墨でかき、唇に朱を施す。但し今は鼻の頭と後頭の一部を欠失している。

隨群面一類(第三十三號)

大小 堅 内 二六・〇 横 外 内 二九・五 辨 辨 (頭に丁度よし)

赤面長鼻壯者相、眼鼻口の五所を透し、耳朶に貫孔を作る。鼻の表現最も力強く、全面粉地に丹を塗り、眼と齒に銀、口唇に朱彩を施し、眉毛、口髭・頤鬚・頬髯を墨で描く。毛筋の線描甚だ潤達である。なおこの面の右頬裏には「作□□功八人□□」の墨書があるが、肝心な作者名は判讀出来ない。



さるは、種々異なる形に出現する。

ノ、上段の彫刻が式部記の「さる」の面のはげまの「サ」に似て、八八八の「サ」の彫刻が、面彫刻に似て、細く曲つて、口縁が尖つてゐる。後、口縁・眉・頬の彫刻が、面彫刻に似て、細く曲つて、口縁が尖つてゐる。後、口縁・眉・頬の彫刻が、面彫刻に似て、細く曲つて、口縁が尖つてゐる。

式部記 卷之八 式部記 卷之八 式部記 卷之八

鬚髯面一葉（卷三十一葉）

鬚髯を彫つた、深き溝を、用いて、口縁の形も、鬚髯の形も、一層、深き穴を、うけた。

本面、鼻の彫刻が、口縁の彫刻に似て、細く曲つて、口縁が尖つてゐる。後、口縁・眉・頬の彫刻が、面彫刻に似て、細く曲つて、口縁が尖つてゐる。

式部記 卷之八 式部記 卷之八 式部記 卷之八

卷六十二圖 鬚髯面一葉（卷八十一葉）

第六十三圖 隨群面一類(第百二號)

大小 堅 外内 二五・〇〇 横 外内 一九・七〇 (頭か箱入らぬ)

厚手の面で、目鼻口の五所を透し、耳朶に貫孔を作る。顔には黄土の具を塗り、鼻は普通で、眉はさか立ち、目と齒は銀、口には紅をさし、又頬と耳には紅を塗かしている。鼻の普通であるのと大人の頭の這入らぬ事とは、隨群でないかもしれぬが、しばらくこれにおく。

隨群面一類(第百四號)

大小 堅 外内 三六・〇〇 横 外内 二七・〇〇 (頭に丁度よい)

鼻と後頭部の全部を失う。赤面壯者の相をなし、粉地に丹の具を塗り、眼と齒を銀、唇に朱を彩り、眉とひげは墨で描く。眼と鼻と口の五所を透し、耳朶に貫孔を作る。



顔の表情がゆるい、口はゆるい、目もゆるい、鼻もゆるい、頬もゆるい、唇もゆるい、歯もゆるい、舌もゆるい、喉もゆるい、声もゆるい、息もゆるい、汗もゆるい、涙もゆるい、血もゆるい、汗毛もゆるい、皮膚もゆるい、肉もゆるい、骨もゆるい、筋もゆるい、脈もゆるい、毛もゆるい、髪もゆるい、爪もゆるい、指もゆるい、手もゆるい、足もゆるい、歩行もゆるい、動作もゆるい、思考もゆるい、感情もゆるい、意志もゆるい、行動もゆるい、人生もゆるい、死もゆるい、すべてゆるい。

観音面一葉（第百四葉）

（二）

鼻の骨がゆるい、口はゆるい、目もゆるい、鼻もゆるい、頬もゆるい、唇もゆるい、歯もゆるい、舌もゆるい、喉もゆるい、声もゆるい、息もゆるい、汗もゆるい、涙もゆるい、血もゆるい、汗毛もゆるい、皮膚もゆるい、肉もゆるい、骨もゆるい、筋もゆるい、脈もゆるい、毛もゆるい、髪もゆるい、爪もゆるい、指もゆるい、手もゆるい、足もゆるい、歩行もゆるい、動作もゆるい、思考もゆるい、感情もゆるい、意志もゆるい、行動もゆるい、人生もゆるい、死もゆるい、すべてゆるい。

第六十三圖 観音面一葉（第百二葉）

第六十四圖 隨群面一類 (第百五號)

大小 略 外内 三九・〇 三九・〇 横 外内 一八・五 一八・五 (頭に丁度よい)

赤面長鼻壯者相、眼鼻口の五所を透した厚手の面で、耳朵に貫孔を作り、頂に毛を貼つた形迹がある。顔は胡粉地に丹を塗り、墨で眉とひげと髮際の頭髮とを描く。又眼と齒には銀泥を塗り、唇には朱を彩る。

隨群面一類 (第六十七號)

大小 略 内 二四・〇 横 外内 一八・五 一八・五 (頭に丁度よい)

厚手の面で兩眼と兩鼻孔を透し、額と頬に皺を作り、長鼻老人の相をあらわす。頂は木地のままで顔には粉地に丹を塗り、唇に朱、目を銀にして、眉とひげは墨で描く。



才胆のまをす、顔の骨相の代を察し、顔の少、目金眼の少、鼻の骨相の少、
 唇の骨相の少、歯の骨相の少、
 唇の骨相の少、歯の骨相の少、
 唇の骨相の少、歯の骨相の少、

大正 昭和 昭和 昭和

銅鑄面一尊（第六十三號）

顔の骨相の少、顔の骨相の少、

唇の骨相の少、唇の骨相の少、
 唇の骨相の少、唇の骨相の少、
 唇の骨相の少、唇の骨相の少、

大正 昭和 昭和 昭和

第六十四圖 銅鑄面一尊（第六十五號）

第六十五圖 隨群面一類(第一百十一號)

大小 堅 内 三六・〇〇 横 外内 二七・七〇 (頭に丁度よじ)

赤面壯者相、厚手の作で、口を閉じ目鼻の四孔を透す。顔には粉地に赤の具を塗り、眉とひげは墨でかき、唇には朱をぬる。頭は木地のままで、頂に毛を貼り銅圓板を打つたかたが残る。

隨群面一類(第六十九號)

大小 堅 内 二五・五〇 横 外内 二七・〇〇 (頭に丁度よじ)

赤面壯者相、厚手の作で、目鼻口の五所を透し、顔には粉地に丹を塗り、唇と頬には更に朱をぬす。目と齒は銀に塗り、眉と髭は墨でかく。又頭は木地の儘であるが頂に毛を貼り銅圓板を打つたかたが残る。後頭部下縁には連続する小孔を穿ち、全體的にも細部的にも前掲隨群面(第一百十一號)と甚だ似る。



前掲の面（第百十一號）も其式同く
 全顔に陶製を以て式式に製する。前掲の面は小鼻を穿て、全顔に陶製
 造りたる。目も陶製に造り、鼻も陶製に造り、又陶製木製の鬚を以て目
 前非非非、鼻の骨を、目鼻口の裏に造り、陶製に造りたる。

大者 型 西 一 號 附 西 一 號 附 西 一 號 附

觀舞面一遺（第百十一號）

式式に製する。
 目も陶製に造り、鼻も陶製に造り、又陶製木製の鬚を以て目
 前非非非、鼻の骨を、目鼻口の裏に造り、陶製に造りたる。

大者 型 西 一 號 附 西 一 號 附 西 一 號 附

第百十一圖 觀舞面一遺（第百十一號）

第六十六圖 隨群面一類(第六十六號)

大小 堅内 二五・〇釐 横内 一九・八釐 (頭に丁度よし)

赤面壯者相、厚手の作で眼鼻の四孔を透し、頭は木地のままにして、顔には胡粉地に丹を塗り、更に頬と唇に朱を施し、眉とひげを墨でかく。又後頭部には連続せる小孔を穿つ。

隨群面一類(第九十號)

大小 堅内 二七・五釐 横内 二一・七釐 (頭に大ききる)

赤面壯者相、眼鼻の四孔を透した薄手の面で、顔は胡粉地に黄褐色を塗り、目には銀泥唇と頬と額には朱を彩り、眉とひげと髮際には毛筋を墨でかいている。なお頭には毛髪を三段に貼り、後頭部には連続せる小孔を穿つ。



非を蒙り。

摩多ハハテハル。本を版ニシテ手墨を三列ニ描り、鼻眼睛ニシテ版畫せる小
等ノ、目ニシテ鼻眼睛ニシテ版畫せる等ノ、目ニシテ鼻眼睛ニシテ版畫せる小
等ノ、目ニシテ鼻眼睛ニシテ版畫せる等ノ、目ニシテ鼻眼睛ニシテ版畫せる小

大者 型 西 二 五 〇 號 附 西 二 五 〇 號 (前 二 五 〇 號)

觀 報 面 一 號 (第 六 十 號)

鼻 眼 睛 二 三 列 畫 せ る 小 耳 等 也。

筋 二 三 列 畫 せ る 小 耳 等 也。筋 二 三 列 畫 せ る 小 耳 等 也。筋 二 三 列 畫 せ る 小 耳 等 也。
筋 二 三 列 畫 せ る 小 耳 等 也。筋 二 三 列 畫 せ る 小 耳 等 也。筋 二 三 列 畫 せ る 小 耳 等 也。

大者 型 西 二 五 〇 號 附 西 二 五 〇 號 (前 二 五 〇 號)

第 六 十 六 圖 觀 報 面 一 號 (第 六 十 六 號)

第六十七圖 隨群面二類(第六十八號)

大小 堅内 三五・〇 横内 一七・五〇
外内 二一・五〇 (頭に丁度よし)

目と口もとに皺をよせ、鼻がかぎのように曲つた面で、目鼻の四孔を透し、頭は黒く、顔は胡粉で白く塗つている。なおこの面の右耳には「隨群」の墨書があり、この種の面もまた隨群の一種なる事を知る。

隨群面二類(第七十七號)

大小 堅内 二四・〇 横内 一七・五〇
外内 二一・五〇 (頭に丁度よし)

目と口もとに皺をよせ、かぎ鼻を作ること前掲面と甚だ似るのみならず、目と鼻の四孔をのみ透し、頭を黒く、顔を白く塗つているのも彼と同じである。但し皺の数は彼より多い。



同様に、同じ種の顔はありである。

「目と鼻の間にその木製の、眼を閉じ、唇を白く塗り、その色も同じ目と口も同じ顔を作り、木を黒く染めるとその顔は、その顔の形に似るものである。」

大正 昭和 二〇〇〇年 昭和 二〇〇〇年 二〇〇〇年 二〇〇〇年

顔 前二種（第六十八号）

「顔」の調査は、その顔の面と、その顔の「顔」の形を研究する。

「顔」の調査は、その顔の面と、その顔の「顔」の形を研究する。目と口も同じ顔を作り、木を黒く染めるとその顔は、その顔の形に似るものである。

大正 昭和 二〇〇〇年 昭和 二〇〇〇年 二〇〇〇年 二〇〇〇年

第六十八号 顔 前二種（第六十八号）

第六十八圖 隨群面二類(第十六號)

大小 堅 内 二六・〇 横 内 一八・〇 體 (頭に丁度よい)

長鼻老人相、口を閉じて目鼻の四孔を透し、顔には黒漆地に丹を塗り、目は銀、唇と耳孔には朱を彩し、眉とひげは墨でかく。頭には毛を三段に植え頂に金銅圓板をうつ。なお面の内側中央に「東大寺財福師作」左頬裏に「夷」字の墨書がある。

隨群面二類(第八十九號)

大小 堅 内 二五・五 體 横 内 二四・〇 體 (頭に丁度よい)

長鼻老人相、目鼻口を透し耳朶に貫孔を作り、後頭部に連続せる小孔を穿つ。顔は黒漆地に黄赤色を塗り、目に銀、唇に朱を彩し、且つ耳内の皺や頬の皺にも、朱線を隈どり、眉ひげ頭髪は墨でかき、頂上髪を三段に植えて中心に金銅圓板をうつ。なお面の内側中央に「東大寺」の墨書があり、前掲十六號面と甚だ似る。面貌には小異はあるが、両面一具として作られたものかと思われる。



前二其六「（其六）」の形は、（其六）の形に似ている。
 前中央「（其六）」の形は、（其六）の形に似ている。
 前中央「（其六）」の形は、（其六）の形に似ている。
 前中央「（其六）」の形は、（其六）の形に似ている。
 前中央「（其六）」の形は、（其六）の形に似ている。
 前中央「（其六）」の形は、（其六）の形に似ている。
 前中央「（其六）」の形は、（其六）の形に似ている。
 前中央「（其六）」の形は、（其六）の形に似ている。
 前中央「（其六）」の形は、（其六）の形に似ている。
 前中央「（其六）」の形は、（其六）の形に似ている。

観音面二種（第八十八式）

第六十八圖 観音面二種（第八十八式）

さき面の内中央の「（其六）」の形は、（其六）の形に似ている。
 且その形は、（其六）の形に似ている。
 且その形は、（其六）の形に似ている。
 且その形は、（其六）の形に似ている。
 且その形は、（其六）の形に似ている。
 且その形は、（其六）の形に似ている。
 且その形は、（其六）の形に似ている。
 且その形は、（其六）の形に似ている。
 且その形は、（其六）の形に似ている。
 且その形は、（其六）の形に似ている。

第六十九圖 隨群面二類(第五十七號)

大小 堅 内 二五・〇釐 横 内 一七・〇釐 (頭に于座よし)

長鼻老人相、目鼻口の五所を透した厚手の面で、頭には三段の髪を貼り頂に金銅圓板をうち、顔は黒漆地に丹を塗り、唇に朱、齒に銀を塗り、眉・ひげ・髮際の毛を墨で描く。又面内側には「東大寺延均師」の墨書銘がある。

隨群面二類(第二十五號)

大小 堅 内 二三・〇釐 横 内 一八・三釐 (頭に大ききまる)

長鼻中老の相で、目鼻口を透し耳朶に貫孔を作る。顔には黒漆地に丹の具を塗り、唇に紅、齒に銀を彩り、眉とひげは墨でかく。頂に茶楊の髪を植え、面内側には「東大寺前」□將李魚成作、天平勝寶四年四□□の墨書銘をかく。



第六十式圖

鬚髯面二種（第五十式圖）

この面は、鬚髯の面（鬚髯）の性質を示すものである。鬚髯の面は、鬚髯の面（鬚髯）の性質を示すものである。鬚髯の面は、鬚髯の面（鬚髯）の性質を示すものである。

鬚髯面二種（第二十五式）

この面は、鬚髯の面（鬚髯）の性質を示すものである。鬚髯の面は、鬚髯の面（鬚髯）の性質を示すものである。鬚髯の面は、鬚髯の面（鬚髯）の性質を示すものである。

第七十圖 隨群面二類 (第三十八號)

大小 竪 内 二六・〇 横 内 一七・五 (頭に丁度よし)

赤面壯者相、目鼻の四孔を透し、頭には髪を三段において頂に金銅圓板を打ち、顔には黒漆地に丹を塗り、眉・ひげ・髮際を墨でかき、唇を朱にいろどる。面裏中央に「東大寺後」の墨書がある。

隨群面二類 (第四十二號)

大小 竪 内 二六・〇 横 内 一七・二 (頭にゆるし)

赤面壯者相、眼鼻を透し、頭は黒漆塗に髪を三段に植えて金銅圓板を伏せ、顔は黒漆地に丹を塗り、髮際を毛・眉・ひげを墨書して唇に朱を塗るなど、全體的にも細部的にも前掲第三十八號面と甚だ似る。ただこれは眼を銀にし、面裏中央に「東大寺」とのみ墨書してある。



聖徳太子像

この像は二十八世紀の古式といわれ、式部卿の「古事類聚」に「高麗中世の太子像」として記述されている。像の顔は、額・鼻・口・顎の間に深い溝が走り、その間に深い皺が刻み込まれている。これは、高麗の太子像の特徴である。また、この像は、高麗の太子像の原型とされている。高麗の太子像は、高麗の太子像の原型とされている。高麗の太子像は、高麗の太子像の原型とされている。

高麗太子像(高麗) 高麗(高麗)

高麗太子像(高麗) 高麗(高麗)

高麗太子像(高麗) 高麗(高麗)

高麗太子像(高麗) 高麗(高麗)

高麗太子像(高麗) 高麗(高麗)

昭和二十八年一月十六日印刷
昭和二十八年一月二十五日發行

第七輯(定價金五千巴)

著作權所有

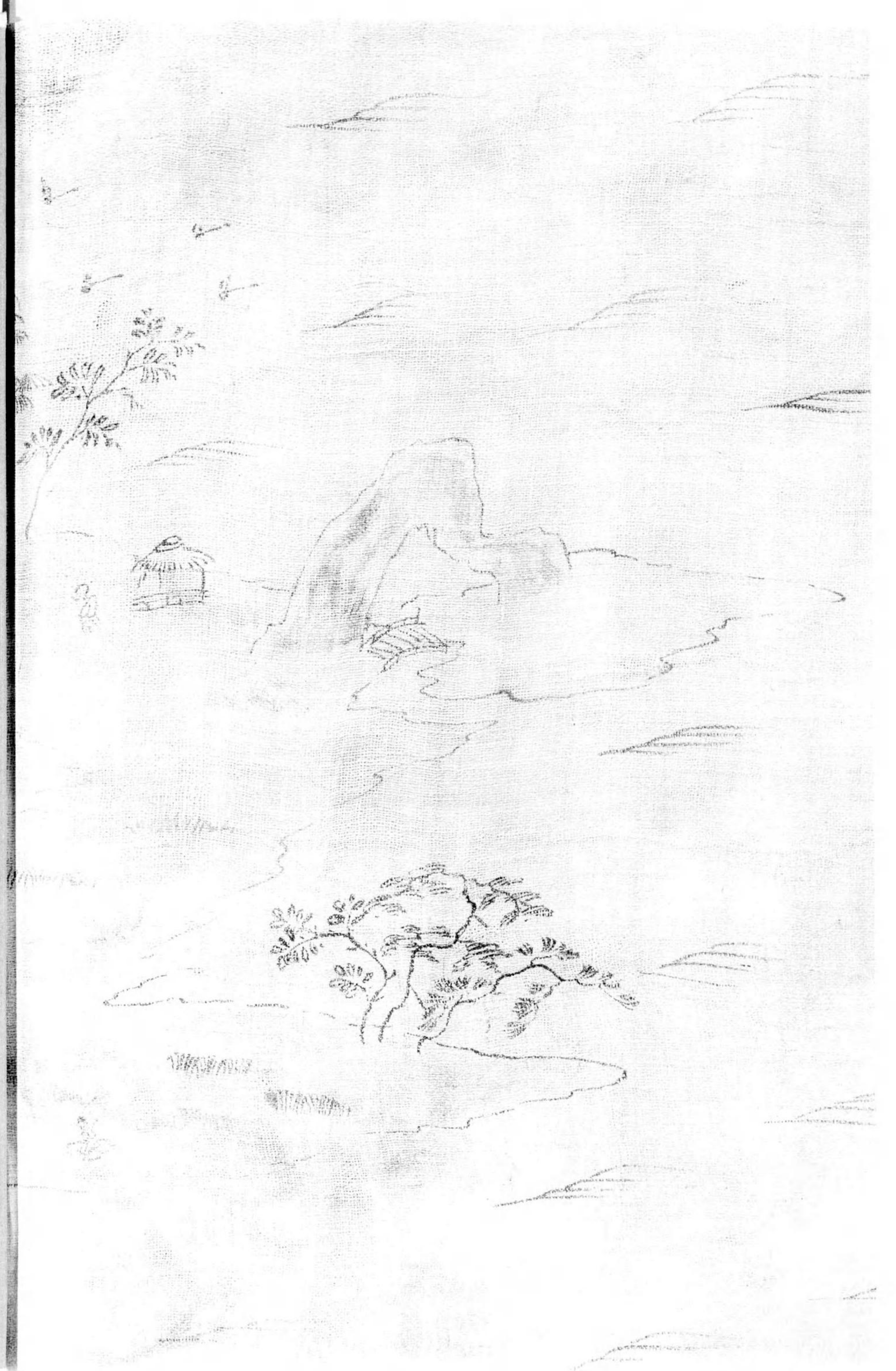
文化財保護委員會

編集

東京国立博物館

東京国立新聞館
文部省新聞委員

昭和二十八年一月二十六日
印刷
紙張二十八号
印刷部



終

||

||